



吸収・除去系カーボンプレジット創出促進事業

本事業の内容と成果の概要

最終報告会

令和8年(2026年)1月29日

本報告会では、本事業に参加しているスタートアップの成果概要と今後の展望をお伝えする

本事業の概要と最終報告会の位置づけ

本事業の背景・概要

■ 東京は豊富な自然資源を有し、クレジット創出のポテンシャルが高い

- 特に、多摩・島しょ地域を中心に豊かな森林・海洋資源に恵まれている

■ 上記環境を活かし、東京都はカーボンのクレジット関連の取り組みを推進

- 吸収・除去系クレジットをはじめとするカーボンのクレジットの創出、取引の活性化に向けた様々な取り組みを実施中

■ その一環として、東京で吸収・除去系クレジットの創出モデル確立を目指す

- 革新的な技術やアイデアを持つスタートアップと連携し、多摩・島しょ地域の自然環境を活用したクレジット創出の実証事業を支援
- 結果として、農林水産分野の吸収・除去系クレジット創出モデルを東京から作り出すことを目的としている

本最終報告会の位置づけ

- 都が支援中の採択スタートアップが実証事業の成果をご共有
- 特に、これまでの事業成果や、直面している課題、今後の展望を発表



吸収・除去系カーボンのクレジット創出の最新動向をふまえ、
今後クレジット創出等に取り組まれる
方の一助とさせていただきたい



吸収除去系クレジットは殆どのテーマで採算性の課題や方法論未整備の課題が存在し、
これまで都内では導入実績が限定的であった

東京都の実証事業開始前の自然系クレジットのステータス

◎:当Stepの課題は解決済み

△:取組は進むが一部の課題は未解決

✕:未解決の課題が多く残されている

CDR技術		ステータス概要	Step1 技術開発	Step2 国内FS・ パイロット事業	Step3 事業性の向上		Step4 事業拡大
					コスト削減	付加価値化	
農業	バイオ炭	農家の バイオ炭製造・施用コスト を上回る 収益確保 が困難	◎	◎	✕	✕	✕
	土壌炭素貯 (農地貯留)	国内で殆ど 実績がなく施用効果が不明	◎	✕	✕	✕	✕
林業	森林吸収 (計画有:人工林)	既存の取組は公有林または一部の大規模林地が中心。 実施できる候補地が少なく、採算性が低い	◎	◎	△	△	△
	森林吸収 (計画無:天然林)	天然林(森林経営計画無)では Jクレジットの創出ができない	◎	✕	✕	✕	✕
水産業	ブルーカーボン	体制構築を含む 創出ノウハウが未確立。コスト に課題	◎	✕	✕	✕	✕

本事業では様々な課題に対するソリューションを実証・都内実績を創出し、多様なクレジット
テーマの事業化レベルを引き上げることに成功した

これまでの東京都クレジット事業の成果

東京都のR6-7年度実
証事業による取組

	CDR技術	各分野の主な成果				
			Step1 技術開発	Step2 国内FS・ パイロット事業	Step3 事業性の向上 コスト削減付加価値化	Step4 事業拡大
農業	バイオ炭	都内農地の バイオ炭 による 収量増・収益性 の改善方法を確立	○	○	× → △ 堆肥併用による 施用コスト削減 増収効果のある機能性 バイオ炭開発	×
	土壌炭素貯 (農地貯留)	農地貯留 (緑肥散布)による 施用効果 を確認	○	× → △ 都内初の緑肥施用と栽培 効果の可視化	×	×
林業	森林吸収 (計画有: 人工林)	人工林 におけるJクレジットの 低コスト化 による収益拡大を可能に	○	○	△ → △ オープンデータ/衛星 データ活用によるモニ タリング効率化	△
	森林吸収 (計画無: 天然林)	国内外の VC創出～付 加価値化販売 までの一連の収益モデルの構築	○	× → △ 天然林で活用可能な海外 VCS方法論によるクレジット創出	× → △ 航空 x 衛星併用によるモニタリング効率化 生物多様性価値による クレジットの付加価値化	×
水産業	ブルーカーボン	島しょ部における円滑な ブルーカーボン創出ノウハウ を獲得	○	× → △ 都内初のブルーカーボン創出 (藻場造成～クレジット発行)	× → △ 遠隔監視技術によるモニタリングコスト削減 漁協・教育機関への 地域貢献	×

本事業の成果は様々な事業者のカーボンのクレジットの創出・活用に活かしていただくことが可能

本最終報告のクレジット関係者への価値



クレジット創出

“ 農林水分野のカーボンのクレジットに取り組みたい...

- 衛星や公開データ活用によるコスト削減や栽培効果の改善、生物多様性価値付与等の事業性向上が進捗
- Jクレジットではカバーしていないテーマや手法を対象とした国内外のボランタリークレジットの創出ノウハウの確立

“ 関連する技術を持っており、連携プレイヤーを見つけたい...

- 実証事業後の今後の事業展開において、新たな製品、技術やサービスとも連携する可能性が生まれている



クレジット購入

“ 都内で発行されたカーボンのクレジットを購入したい...

- 脱炭素目標達成に必要な「吸収・除去価値」だけでなく、「地産地消/地域貢献の価値」を有するクレジットを創出

“ CO2削減以外の価値を訴求できるクレジットが欲しい...

- 森林の生物多様性価値を付与したクレジットを創出

本日のプログラムと流れ

農業系

林業系

水産系

時間	議事次第	登壇者	実証事業の内容
14:00～14:05	開会挨拶	東京都	
14:05～14:15	令和6・7年度東京都吸収・除去クレジット実証事業の概要	事務局	
14:15～14:45	スタートアップによる発表①	Green Carbon株式会社	- 都内におけるバイオ炭/カーボンファーム由来クレジットの創出 - 都内企業等へのクレジット売却及び農家への収益還元
14:45～15:15	スタートアップによる発表②	株式会社フェイガー	- 農家のバイオ炭施用の取組拡大に向けた施用効果の定量化 - バイオ炭の機能性追加による生産性向上 - 都内におけるバイオ炭の地産地消型モデルの構築
15:15～15:25	休憩		
15:25～15:55	スタートアップによる発表③	アイフォレスト株式会社	リモートセンシングを活用した森林のCO₂吸収量算定手法 生物多様性の定量評価モデルおよび方法論の策定 - 日本の森林分野における新たなボランタリークレジットの創出
15:55～16:25	スタートアップによる発表④	クreatウラ株式会社	オープンデータの活用による都内Jクレジット創出の効率化 - 都内天然林を対象にした海外ボランタリークレジット創出
16:25～16:55	スタートアップによる発表⑤	ウミترون株式会社	- 都内島しょ地域のブルーカーボン創出に向けた海藻の生育 - 遠隔地での創出のためのリモートモニタリング技術の研究開発
16:55～17:00	閉会	事務局	

令和7年度採択スタートアップでも様々な吸収・除去クレジットの先進的な取組を実証中

令和7年度採択事業者の紹介

	採択事業者	本事業における各社の取り組み	今後の展望
農業	 TOWING	- 農地における高機能バイオ炭 "宙炭 (そらたん)" 活用によるクレジット創出 - バイオ炭由来の作物のブランド化・消費者認知向上・単価向上に向けたマーケティング	2025年9月～2026年12月 まで本実証事業を通して、 クレジット創出の知見の集積 や事業モデルを構築
林業	 STELLARGREEN	衛星データの活用・AI補正による森林クレジットの創出コスト削減と工数短縮 - 森林が蓄積する地下水の可視化・モニタリングを通じた森林の多面的機能の評価によるクレジットの高付加価値化	2026年4月に 中間報告会を開催予定
水産業	 BLUABLE	- 島しょ部における、ブルーカーボンの深海固定手法の実証 - 海洋による炭素固定、生態系影響の分析 - 藻場造成コストや、炭素吸収量の計測コストの削減	



bcg.com